特定非営利活動法人
日本防災士会高知
正会員55名　賛助個人会員10名　賛助法人会員1団体　（令和2年6月）

特定非営利活動法人
日本防災士会高知
JAPAN BOUSAISI SOCIETY　KOCHI
〒780-0914　高知市宝町19-20
Tel／Fax088-875-9773
http://bousaishikochi.watson.jp/

新型コロナウイルス感染症流行下における災害救護活動（高知赤十字病院　DMAT）

高知赤十字病院DMATは7月10日から7月12日まで、豪雨被害を受けた熊本県にて活動を行いました。今回の災害はこれまでと違い、新型コロナウイルス感染症に対応した活動が求められました。まず、隊員の健康管理が重要と考え、毎朝の検温や、体調確認、マスクなど感染予防具の着用、各個人が手指消毒剤を携行し、一動作毎に消毒を行うなど感染予防に努めました。

被災地でも国や県の指針にしたがい、個人個人の間隔を開ける、段ボールパーテーションを利用するなど、三密を避けた避難所運営に取り組まれていました。

当隊は、球磨村の避難者支援の指令を受け、孤立集落から避難されてきた方の健康チェックや、村内にいくつかある避難所へ向かい、要救助者、要支援者がいないかなどの確認を行いました。外部からの介入をストレスと感じられても当然ですが、今回は地元住民との関わりが非常に強い地元の保健師さんに同行いただいたため、スムーズな活動が行えました。避難所では、顔見知り同士ということもあり、マスクを着用されていない方もいらっしゃいましたが、外部からのウイルスの進入も考えられるため、マスクの着用を促しました。そして、新型コロナウイルス感染症等の問題で車中泊をしている方もおり、エコノミークラス症候群（深部静脈血栓症）予防のためのチラシを作成し注意を呼びかけました。

今回の災害では、新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐため、在宅避難されている方も多くいましたが、その場合に情報や物資が行き渡らないといった問題もありました。

高知県においても大規模な南海トラフ地震の発生確率が高まっており、災害対策をより一層考えていかなければなりません。感染症についてもリスクをゼロにすることは難しくても、低くすることは出来ると思いますので、今回の経験を今後の活動に活かしていきます。

※記事及び写真提供：高知赤十字病院

派遣されたのは、医師２名、看護師２名、業務調査員２名の６名です。

四国支部連絡協議会　研修会

日本防災士会四国支部連絡協議会の令和2年度研修会が、9月12日、香川県支部をホストにしてオンラインで開催しました。入場者には、受付で体温測定、手指の消毒、健康チェックなどを行っていただきました。講師は香川大学医学部の平尾教授、「感染症流行下における避難・避難所運営について」のテーマで講演をいただきました。本県では、自宅等での参加、あるいは高知会館での集合参加があり、合わせて20名の会員が受講されました。

避難訓練

会員が所属する高知市宝町の自主防災会が、感染症対策を踏まえた避難所受付・運営訓練を行いました。

8月9日、それぞれの自宅から高知市立城北中学校の避難所受付まで避難する訓練です。約50名の方々が避難袋を持って集まり、受付では、体温測定と手指の消毒を行い、そして受付の周りでは換気のため扇風機で送風していました。

お知らせ

●HPの一部をリニューアルしました。出前講座などの活動の実績を掲載している「活動記事」へのアクセスが簡単にできるようにしました。またページの配色を一部変更しました。

出前講座における感染症対策

出前講座の実施に関して、新型コロナウイルス感染防止対策として講座依頼者へのお願いと注意事項などをホームページに掲載しました。「安全に出前講座を行うために」と題して、一部講座の実施の見送り、人との距離の確保、健康チェックや手指の消毒、マスク着用、会場の換気などを挙げています。ご参考にしてください。

出前講座

■　高知市内の再生資源の工場を持つ事業所からの依頼で南海トラフ地震の基礎講座を実施しました。その後、「BCP（事業継続計画）」を視野に入れた防災マニュアル作り講座への依頼があり実施しました。

講座にあたっては、講師を含む全員が、手指の消毒の実施とマスク着用です。

■　親子が参加する「防災グッズづくり」講座を実施しました。講師は、手指の消毒の実施、そしてフェイスガードとマスク着用で防災グッズづくりを指導しました。